

平成 21 年 5 月 26 日現在

研究種目：若手研究（B）
 研究期間：2006 年 ～ 2008 年
 課題番号：18720086
 研究課題名（和文） 「満洲国」時期の文学に関する日中横断的研究
 研究課題名（英文） A cross-sectional study of Japan and China about the literature of the "Manchuria country"

研究代表者
 大久保 明男 (Ohkubo Akio)
 首都大学東京・人文科学研究科・准教授
 研究者番号：10341942

研究成果の概要：本研究は研究期間内に調査した文献は、中国語の雑誌は六十余種、日本語の雑誌は三十余種、新聞は日中両言語で合計四十余種、単行本はおよそ五百冊以上にのぼります。これらの文献資料を駆使した一部の研究成果は雑誌への論文掲載や学会発表、図書刊行の形ですでに公開されていますが、まとまった研究成果として、「満洲国」の文学・文化関連年表、文学事典、主要新聞・雑誌の解題、目録索引、作品アンソロジーの公刊を目指して、現在も研究活動を継続しております。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	1,300,000	0	1,300,000
2007 年度	1,000,000	0	1,000,000
2008 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	330,000	3,730,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：「満洲国」、植民地文学、中国文学、中国東北部の文化

1. 研究開始当初の背景

(1) 日本における「満洲国」についての研究は、以前より政治、経済、社会、歴史などの分野において盛んにおこなわれてきたが、文学や芸術の分野においては未だに開拓されていない領域が存在するといえます。近年、「満洲国」時期の文学についての研究が注目されるようになり、日本文学の

研究分野では日本人作家や日本語作品についての研究がおこなわれ、優れた成果がある程度蓄積されてきました（川村湊先生の先行研究など）。しかし、日本文学のカテゴリーに留まったこうした研究では必然的に中国側の作家や作品が研究の対象から排除されてきました。

(2) 一方、中国文学の研究分野において

も専ら中国側の作家や作品についての研究がおこなわれており、なかでも特に一部のいわゆる「抗日文学」に偏る傾向が顕著です。また、中国の研究界では、中国政府の歴史認識や日中関係の変化などから影響を受けやすく、「抗日文学」以外の作家・作品は「日本の満洲統治に加担した文学」、「民族を裏切ったもの」として見なされがちで、今でも敬遠されている風潮があります。このため、当時の日本人文学者の活動を包含した研究、すなわち、日中両国に跨る、当時の文学状況を鳥瞰的な視点からとらえる横断的で総合的な研究が未だにおこなわれていないように思います。

(3) 2003年4月より三年間、わたしは研究代表者として科学研究費補助金(若手研究(B))を取得し、「満洲国」時期の中国人作家とその文学活動についての基礎的研究をテーマに研究してきました。「満洲国」時期の中国人作家の評伝や作家別著作目録などの研究成果をまとめようとしたところですが、この過程の中で、上で述べたような現状や問題点が次第に明確になり、日中横断的な研究が必要不可欠だと痛感するようになりました。現在進行中の「中国人作家とその文学活動」を中心とした研究を進展させ、より広い視野から「満洲国」時期の文学活動をとらえ、研究の集大成を構築していきたいと考えるようになりました。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、全体構想として「満洲国」時期の文学活動について全般的な状況を把握し、基礎的な事実を解明することを目指します。今までの「満洲国」時期の文学活動についての研究は、先述したように日中両国において研究対象の偏向が存在し、両国間の学術交流も活発ではなかったように

思います。本研究はまず、このような現状を克服・打破するところから出発して、「満洲国」時期の文学活動は日中両方の文学者が関わり合い、日中双方の言語がせめぎ合う緊張関係のなかでおこなわれてきたという認識に基づき、一つのカテゴリーとして捉えたうえで、両国の先行研究成果をふまえながら、「満洲国」時期文学の全体像を日中横断的に描き出すことを目指します。

(2) 具体的な目的は、「満洲国」時期の文学活動に関わる、日中両国に跨るすべての事象、事件、組織、人物、発表メディアについての基礎的な情報や事実を把握し、解明することにあります。これまでの研究をふまえ、「満洲国」文学・文化関連年表、「満洲国」文学事典、「満洲国」時期主要新聞・雑誌解題などを研究成果としてまとめ、公表していきたいと考えております。

3. 研究の方法

(1) 先述した研究目的を達成するために、まず、日中両国の研究機関での資料収集が必要です。特に日本の研究機関でほとんど入手できない当時の中国側文学活動関連の文献や資料を、中国東北部の大学や図書館、研究機関に出向き、発掘調査・収集することが必要となります。

(2) 具体的には当時に発行されていた新聞、雑誌、単行本、パンフレットなどの文献について、その所在調査、閲覧、複写、復刻本やマイクロフィルム化した資料の購入などです。

(3) 資料の調査や収集作業に努めるとともに、資料の整理作業や資料に基づく研究活動も同時に進行させます。資料の整理作業は、資料の分類、閲読、分析、目次入力、データベース化などを指します。研究活動は作家の略歴や文学関連の動向などの事

象に対する把握、考察、検証、論考などを言います。

4. 研究成果

(1) 本研究は研究期間内に調査した文献は、中国語の雑誌は六十余種、日本語の雑誌は三十余種、新聞は日中両言語で合計四十余種、単行本はおよそ五百冊以上にのぼります。このうちの一部重要なものについて、閲覧や複写ができ、また復刻版やマイクロフィルム化した文献を購入することもできました。なお、一部は所在が判明していないものがまだあります。

2009年5月現在、入手したこれらの資料を継続的に整理、編集し、研究や考察の作業も進めています。近い将来、基礎的な研究成果として、「文学・文化関連年表」、「文学事典」、「主要新聞・雑誌の解題」、「目録索引」、「作品アンソロジー」などの公刊ができるよう鋭意努力しているところです。

(2) 一部の研究成果は下記5の記述通り、雑誌への論文掲載や学会発表、図書刊行の形ですでに公開されています。

(3) この研究テーマに取りかかりはじめてから数年経ちましたが、その間にはほぼ毎年に中国東北部の図書館や研究機関に出向き、当時の文献や資料を調査・収集してきました。この調査作業を通して現地の研究機関や研究者との間に築いてきた信頼関係や人間関係も一つ大きな成果だと言えます。例えば、過去の資料収集に、元遼寧大学教授、前遼寧省政治協商委員会主席、全国政治協商会議委員などの要職を務めた張毓茂先生から多大なご支援を受けました。また、吉林大学、吉林省社会科学院、遼寧省図書館、大連市図書館、北京市の国家図書館、中国現代文学館などの関連機関や関係者からも惜しまない協力をいただきました。本

課題のように、国境に跨る研究をスムーズに展開させるために、このような信頼関係や人間関係が必要不可欠です。今後も大事にしながらいっそう広げていきたいと考えております。

(4) また、先述したこのテーマの研究における日中の隔たりは、一因として、両国の学术交流がほぼ閉ざされていたからだと言えます。この状態を改善するために、日中双方の研究成果を互いに紹介し、人的交流を深めていく必要があります。これまでの資料収集作業や研究活動を通じて、現地の研究者と意見交換や学术交流を積極的におこなってきました。下記5の研究論文以外の成果として、下にあげる学術論文の翻訳紹介はその一例です。

呂元明著、大久保明男訳「也麗論」『植民地文化研究』第七号、2008年7月(101頁～113頁)

呂元明著、大久保明男訳「『満洲』植民地時期の文学」『植民地文化研究』第六号、2007年7月(86頁～97頁)

呂元明著、大久保明男訳「周保中の詩歌 満洲植民地時期文学の一頁」『植民地文化研究』第五号、2006年6月(48頁～59頁)

(5) 一方、日本国内においても研究交流の重要性は言うまでもありません。2001年春より、専門分野間の横断的な研究組織——「満洲国」文学研究会——を研究仲間と立ち上げました。2009年5月現在まで計十六回の定例研究発表会、数十回の読書会を運営してきました。さらに2007年9月に研究会の論文集として『中国東北文化研究の広場』を創刊し、現在第二号を刊行しました。今後ともこうした切磋琢磨の場を築いていくながら、活用し、研究をさらに深めていきたいと考えております。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計4件)

- ① 大久保明男、「満洲国」の留日学生駱駝生と東京左連、『中国東北文化研究の広場』第二号、2009年3月、「満洲国」文学研究会、p.137-156、査読あり
- ② 大久保明男、偽満洲国漢語作家の語言環境と文学文本中の語言応用、『国際共同シンポジウム 帝国主義と文学 報告者論文集』、2008年8月、愛知大学、P198-224、査読なし
- ③ 大久保明男、『盛京時報』の文芸欄<文学>概観、『中国東北文化研究の広場』第一号、2007年9月、「満洲国」文学研究会、P91-121、査読あり
- ④ 大久保明男、偽満洲国作家古丁と日本文化、『抗日戦争時期淪陷区史料と研究』第一輯、2007年3月、百花洲文芸出版社(中国・南昌)、P175-189、査読あり

[学会発表] (計2件)

- ① 大久保明男、偽満洲国漢語作家の語言環境と文学文本中の語言応用、国際共同シンポジウム 帝国主義と文学、2008年8月2日、愛知大学車道校舎
- ② 大久保明男、「満洲国」作家古丁と日本、植民地文化学会定例研究発表会、2006年7月9日、江東区東大島文化センター

[図書] (計1件)

- ① 植民地文化研究会編、『<満洲国>文化細目』、不二出版、2005.6、項目執筆(7項目担当)

[その他]

ホームページ等

http://members.at.infoseek.co.jp/qiao_ben/mbk/

<http://nihongo.human.metro-u.ac.jp/nihongo/index.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大久保 明男 (Ohkubo Akio)

首都大学東京・人文科学研究科・准教授

研究者番号：10341942